

「情報をつかんで生き残れ！今日からできる地図&twitterで減災術」講座

【地図情報読みこなし講座】活動記録

市民・NPOがつくる男女共同参画事業（男女共同参画センター横浜北／地域出前企画）

日 時：2012年10月27日（土）10：00～12：00

場 所：西区福祉活動拠点フクシア 多目的研修室

主 催：NPO 法人シャーロックホームズ

参加者：23名

講 師：鈴木 光（すずき ひかり）防災ファシリテーター

横浜市生まれ、港北区在住。総務省消防庁の防災図上訓練指導員として全国各地の自治体で活動する他、地域での防災訓練、ワークショップ、勉強会等を企画、講師も務める。

趣味はアルトサクソ。5月にアマチュアバンドメンバーと陸前高田、大船渡のジャズ喫茶でライブを決行。

<http://www.facebook.com/hikari.suzuki8>

はじめに

NPO 法人シャーロックホームズ理事 宮島真希子より同法人の概要について簡単な説明があった。

ワークショップ

講師：総務省消防庁防災図上訓練指導員・防災ファシリテーター 鈴木光氏

第1部：横浜でも地震は起きるの？

はじめにスクリーンを見ながら横浜で想定される様々な地震の説明があった。続いて紹介されたのが、大正時代の関東大震災前後の街の風景、阪神淡路大震災のコンビニ店内（震度 7.3）の棚が倒れ品物が散らばる動画、土砂災害時に土砂が崩れ落ちるかたわらで震える犬の映像。

そして2011年3月11日の東日本大震災。横浜市内（震度4～5弱）で地面がひび割れ揺れている映像は、横浜でも実際に被害が起きたことをまざまざと思い起こさせた。また、総務省消防庁が提供しているサイト『防災48』（<http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/index.html>）より引用された実験映像が流れ、防災安全対策なしでは、オフィスの棚が崩れ、キャスターがついた椅子やコピー機が激しく移動して振り回される様子や、自宅でも洋服ダンスが瞬時に倒れ、テレビが勢いよく飛び落ちる様子が流れ、一同衝撃を受けた。それに続く安全対策ありの同実験で、被害がだいぶ軽減されている様子にも、参加者は感じ入ったようであった。（実験映像 No.25http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/image/04_00.html）

第2部：自分の街を知ろう！

地図を使ったワークショップでは、まず、現在の地図（以下、新地図）の上からビニールシートをかぶせ、更に青いペンで海岸線をなぞる作業からスタート。付箋に「地震が起きた時の自分の状況」をそれぞれ書きだした後、テーブルごとに自己紹介と「地震が起きた時の自分の状況」の共有。またその間に配布されたハザードマップ各種（液状化・土砂災害・洪水）を手にとって、自宅や職場の危険性を参加者同士で確認し、東日本大震災での体験の共有、マップ類の比較、意見交換で場内は盛り上がった。

続く参加者による発表では、横浜市内外の土地情報、東日本大震災からの気づきや意識変化、普段の備えなどを共有した。

発表を受け、講師の鈴木光さんが不安や備えに対してのアドバイスがあった。

続いてワーク再開。今度は古地図が配布され、先ほどの新地図のワークで使用したビニールシートの下に、河川などを手掛かりに合わせて敷いてみると、海岸線のズレに会場内はヒートアップ。自分の居場所がかつてどのような所だったのか、それと比較して今どのような危険があるのかが、瞬時に浮かび上がったのである。鈴木さんによれば、「住んでいる町の地形の特徴は古地図を見るとよくわかります。こうした特徴を知って、災害時にどのように自分が行動するかを『イメージしておく』ことが大事です」とのこと。それぞれの疑問や質問に答えつつ、普段なかなか手に取って見ることができない古地図を始めとする地図類の見方を説明しながら各テーブルを回った。

第3部：何から備える？

「まずは寝室から見直してください。寝ている時は無防備です。冒頭のシミュレーションで、あつという間にタンスが倒れた映像を思い出してください。つっぱり棒をする、タンスが倒れても他の何かと支え合うような仕組みにするなど逃げる時間と道の確保をしてください。『生き残ること』が何よりも大事です。

次に『生き残ったらできること』を考えてください。どう自分が行動すればよいのか？避難所に無理に行く必要はありません。東日本大震災の教訓として、避難所はプライバシーもなく、本当にほしい備蓄品が手に入るとは限らないとわかりました。女性やお子さん連れの方にとっては、もしきちんと安全対策をしていれば、自宅で待機したほうがかえって安全・安心ということもあるので、それを踏まえ普段からそれぞれに合った備えをしてください。例えば、赤ちゃんのいるご家庭ならばミルクやオムツを多めに蓄えておくなどちょっとした工夫です。また普段から家族で連絡先の確認や被災したらどうするのかを話し合ってください。」と講師の鈴木光さんにより、まとめのレクチャーがあった。

また、「東日本大震災で『人の命の大切さ』と『人と人のつながり』ということについて改めて考えさせられました。ここで紹介したいのが、宮城県石巻市の『NPO 法人ベビースマイル石巻』の文集【今、あなたに伝えたいこと】です。この文集は被災したお母さんたちの体験談が綴ってあり、読んでみると『人は一人で生きていけない』ということを痛感させられます。」と、紹介動画を全員でシェア。

最後に「まずは、命があつてこそ。『自分の命は自分自身で守る！』という言葉をみな様にお伝えし、この講座を終了したいと思います。」との言葉で鈴木光さんの講座は終了した。

ワークショップのお土産

すぐにできる防災のお助けとして以下の2点を配布。

1. 備えるヒント集

(講師 鈴木光さん作成、災害用伝言ダイヤル117の体験利用法など、自分で調べるときのヒントが記載)

2. わたしの防災カシート (男女共同参画センター横浜北提供)

男女共同参画センター 白藤香織さんの挨拶と「わたしの防災カシート」について

男女共同参画センター横浜北 白藤香織さんより、男女共同参画センターの紹介・今回の地域出前について簡単な説明と来年度も募集中であることが伝えられた。センターで作成した『わたしの防災カシート』についても説明があった。

アンケート記入 参加者23名中、22名回答。

満足している(13名)、どちらかといえば満足している(4名)とおおむね満足していただけた。